

令和2年 続・年頭所感

(一社) 木の総合文化・
ウッドレガシー推進協議会

会長 原口博光

新年を迎え謹んでご挨拶申し上げます。

昨年5月1日に皇太子さまが天皇に即位され、平成から令和へと新しい時代の幕が上がりました。昨年は気候変動・地球温暖化が引き起す自然災害の甚大化により、不幸にも亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

さて、林業・木材産業は2013年の木材自給率28・6%から2019年は約36・6%迄回復し、供給量も10年前の1900万³mから3000万³mに届こうとしています。日本の森林率は67%で、世界第2位です。1950年代の木材使用禁止から2000年代の森林吸収源対策として、地域木材利用の新時代が到来いたしました。新年度から全国自治体に交付される「森林環境譲与税」の使い道が森林・林業・木材産



業にとって重要な取組みとなります。

自然環境に大きな影響を及ぼす、大気中の二酸化炭素削減の役割に於いて、世界に先駆けて、地球温暖化対策にシフトした政策の推進が求められています。

温暖化ガス削減行動は何より政治のイニシアティブであり、第一義的に我が国の火力(石炭)発電を削減しない限り、温暖化対策への国際枠組み「パリ協定」は運用されないし、COP25国連交渉も合意できていません。日本としては日本産材利用による炭素固定化を推進し、地球温暖化防止策を税制の立場からも積極的に図ることが求められています。我々が生活している「風土」に於いて、伐採木材の炭素固定化をいかにすべきかという、理論武装(WTOに対して)が必要であります。

日本産材を加工する産業・住宅、家具、建具、及び製材・木材加工機械等々が生活している「風土」に於いて、製造した個々の企業の申請による優遇税制を創設することが望まれます。その理念はアースの温暖化防止に貢献しているという大義に他ありません。地球の命題である温暖化防止は循環型社会の構築としての、再生資源の木材を産出する森林の持続可能を担保、証明されたものでなければなりません。時代の変遷と共に、時が成すべき産業の助成策は第二次大戦後の製鉄や電子産業の如く、その基盤を構築してきました。

時は今、森林・林業・木材産業の立ち位置が地球環境規模で環境主題の見地から他の産業と異なる視点で地政学的リスクが引き起こす環境負荷に関し、国家の積極的助成が必要です。

経済活動がグローバル化するに当たって、その活動がSDGs・17項目の理念に沿って考察すると、すべての項目が持続可能社会の構築になくしてはならないが、木材産業人として、敢えて、項目を選別すると、

- 13・気候変動に具体的対策を、
- 11・住み続けられるまちづくりを、
- 7・エネルギーをみんなにそしてクリーンに、
- 12・つくる責任つかう責任、
- 9・産業と技術革新の基盤をつくる、
- 15・陸の豊かさを守ろう、
- 14・海の豊かさを守ろう、

以上、7項目に於いて、その役割の大なるものがあると思います。

日本産材の需要拡大は公共建築物や中層・大規模建築物、その他各種施設に關して、多岐に渡る技術開発の促進です。

当該協議会は日本産材の振興を図り、成長産業化する政策の樹立及びその効果の実施について、国民の目線、企業の視点で提案して行きたいと思っています。

木の総合文化は伝統的木工技術に於いても、CAD/CAM制御による精緻な加工とロボットとの連動、IoT管理が、ビックデータが導くAIによって、作業効率の最適化の研究、開発が行なわれています。

高度な技術を有する職人とNC化は相反するものではありません。融合する事によって、新たな次元を求めて進化して行きます。

あらゆる産業は特注の小ロット生産や規格品の大量生産迄、顧客満足度を求めて、その立ち位置により存在しています。社会構成が混然としているように、産業も又、種々雑多に存在する事が国の豊かさの源泉であり、思考の柔軟性に通じます。木の総合文化とは正に素材から加工まで、あらゆる立ち位置の異なる業種が文化を形成して行く事であり、立場の違いが相手の立場を尊重し、恕の精神を育むことになると思っています。

当該協議会の理念として、木の5大総合文化があります。

- 。木を植えるために、伐る文化。
- 。木を育てる文化。
- 。木を適材適所に造材し、加工し、使う文化。
- 。森林の恵みをレジャーとして、楽しむ文化。
- 。自然の恵みに感謝をして、神々に祈りする文化、です。

(一社) 木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(LWCP)は国際木文化学会(IWCS)、ワールド・ウッド・デー基金会(WWDF)と共催で、

東京オリンピック・パラリンピックが開催される今年、2020年3月21日(国連が定めた「国際森林デー」を核として、3月17日(19日、東京流通センター(TRC))・木の文化祭、20日(22日、文京シビックセンター)・木の音楽祭が「ワールド・ウッド・デー2

2020東京ウツドレガシー木の総合文化展」として、開催いたします。

オリンピックイヤーの開催に当たり、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から「応援マーク」の使用許可を頂いております。

尚、後援名義の使用承認は次の通りです。林野庁、国土交通省、経済産業省、環境省、全国森林組合連合会、東京都、奈良県、文京区、太田区、公益社団法人日本木材加工技術協会、公益財団法人竹中大工道具館、全日本中学生技術・家庭科研究会、全国芸術系大学コンソーシアム、特定非営利活動法人日本現代音楽協会。

後援名義申請中…外務省、文化庁。申請予定：NHK、朝日新聞社 以上。

2020年オリンピック・パラリンピック招致委員会は木材利用を公約して、東京五輪を招致しています。

日本独自の「木の文化」を発信するショーウィンドーとして、新国立競技場の建物は「杜のスタジアム」のコンセプトに則り、環境を重視した大会として、低炭素社会を目指し、木材の活用を図ることを全世界にコミットします。こうしたイベントを通して、大人から子供まで幅広く木の総合文化を伝え、国民に木を知って、身近に感じてもらうことで、木材の断熱性、保湿度、調湿など、私達の生理や情緒に作用することを理解していただければと思っています。

特に青少年少女が木に興味を持ち、将来、木に携わる職業（家具、建具、

建築家、研究者）を目指す人材育成に繋がっていけば幸いです。

森林大国・日本が成長した木を伐って植えて、伐って植えてを繰り返して、木の光合成を活用してCO₂を吸収していく事が子孫に豊かな環境という自然の富を残し、地球温暖化防止と国土強靱化に貢献すると同時に、自然災害を少なくする手段であり方法と考えます。再生可能な自然環境を維持し保全する環境の視点が重要です。

世界が直面する負の連鎖・米中貿易摩擦も俯瞰すると資本主義と共産主義の根本的な資本の原理と謂う「環境」の違いであり、企業の資本と国の資本との対峙によって生ずる体制的問題へと向かうこととなります。あらゆる面で「環境」という語彙はあらゆる国・

世界が直面する事態を共に「解」を求めて、即ち、モチベーションの同一化が必要になって行きます。中東の地政学リスクも原油高や核の拡散と謂う地球環境規模で考察される課題です。5世代通信（5G）対応デバイスなどの普及によるエレクトロニクス分野も又、しかりです。

「環境」は世界が一つである事を謙虚に受け止め、地球温暖化防止に全力で取り組む事が次の世代への責務であると思っております。

末筆になりますが、政府与党、諸官庁、学会、業界団体の関係各位におかれましては、日頃のご指導、ご鞭撻に感謝を申し上げます。

皆様の益々のご健勝とご繁栄を心からお祈りいたします。

時の話題

さあ！観に行こう!!

2020年3月21日は

「ワールド・ウッド・デー」東京!

東京流通センター〔3月17日(火)〜19日(木)〕と

文京シビックホール〔3月20日(金)〜22日(日)〕で

Wood Legacy 木の総合文化展を開催!!



2020年3月21日は「ワールド・ウッド・デー (World Wood Day)」であり、また、2012年12月に国連で決議された「国際森林デー (International Day of Forests)」でもある。尚且つ、

2020年の8月には東京オリンピック

ク・パラリンピックも開催される年で、日本・東京では国際スポーツ、文化、経済交流の為の様々なイベント行事が始まる。

2007年に創設された、木の文化の研究・教育・促進における非営利・

での6日間、2会場での「ワールド・ウッド・デー2020東京ウツドレガシー木の総合文化展」を盛大に開催する。

「木は良い (Wood is Good)」のコンセプトで、自然と人間が調和、共存

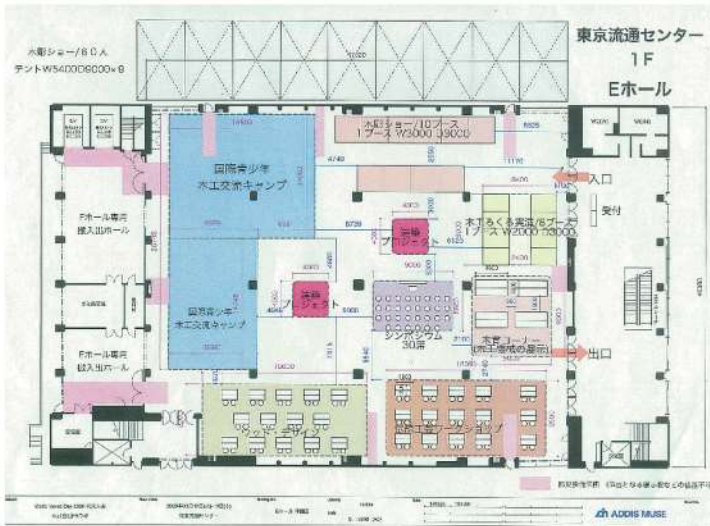
非政府組織である国際木文化学会 (International Wood Culture Society) と(一社)木の総合文化・ウツドレガシー推進協議会 (Legacy of Wood Culture Promotion Council) は共催で、今

春3月17日(火)〜19日(木)に「東京流通センター」、続いて3月20日(金)〜22日(日)に「文京シビックホール」

の促進活動を展開するワールド・ウッド・デーと云う国際フェスティバルは、既にタンザニア、中国、トルコ、ネパール、アメリカ、カンボジア、オーストラリア等、世界を巡って毎年開催されている。

第8回目となる「ワールド・ウッド・デー2020東京ウツドレガシー木の総合文化展」は、海外各国からも日本国内からも多くの専門家や職人や芸術家が集まり、木材と持続可能な未来を促進する文化的なプレゼンテーションを多数展開するフェスティバルで、老若男女誰でもが楽しめる木の文化の祭典となっている。

特に、東京流通センターでの3月17日(火)〜19日(木)までの3日間は、木の総合文化・ウツドレガシー推進協議会(東



京都市板橋区常盤台4-13-3・日新興産ビル、原口博光会長、☎03-3550-6311)がプロデュースする木材産業展が開催され、「日本産材を使った家具・建具・木製品」を主なコンセプトに▼カリモク家具(株)(愛知県)、▼(株)日本の窓(青森県)、▼日高機械(石川県)、▼日新興産(東京都)の企業他、▼(二社)木の総合文化・ウッドレガシー協議会、▼(二社)全国建具組合連合会、▼東京建具協同組合、▼宮大工古式伝統保存会、▼奈良県銘木協同組合等が30小間270㎡に出展し、日本産材の利用で低炭素社会の実現へ向け、木材活用産業の展示と併せて提案する。

木材産業人にとっては大いに見どころで、他の文化芸術のイベントと共に



見学参加を強く推奨したい。(入場無料)

■東京流通センター(東京都大田区平和島6-1-1)

2020年3月
17日(火)~19日(木)(入場料無料)

◎音楽(木の音楽祭とお祭り広場) ◎木育 ◎木彫シヨール ◎木工ろくろ実演 ◎伝統工芸 ◎ウッド・デザイン ◎国際

青少年木工交流キャンプ ◎共同創作プロジェクト(建築) ◎写真とビデオ展示会 ◎木材産業展示(日本国産材利用・間伐材活用)

■文京シビックセンター(東京都文京区春日1-16-1)

2020年3月
20日(金)~22日(日)(入場料無料)

◎木育 ◎木彫シヨール ◎木工ろくろ実演 ◎伝統工芸 ◎ウッド・

デザイン ◎国際青少年木工交流キャンプ ◎共同創作プロジェクト(建築) ◎シンポジウム ◎写真とビデオ展示会 ◎ワールド・ウッド・デー2020コンサート(チケット有償)

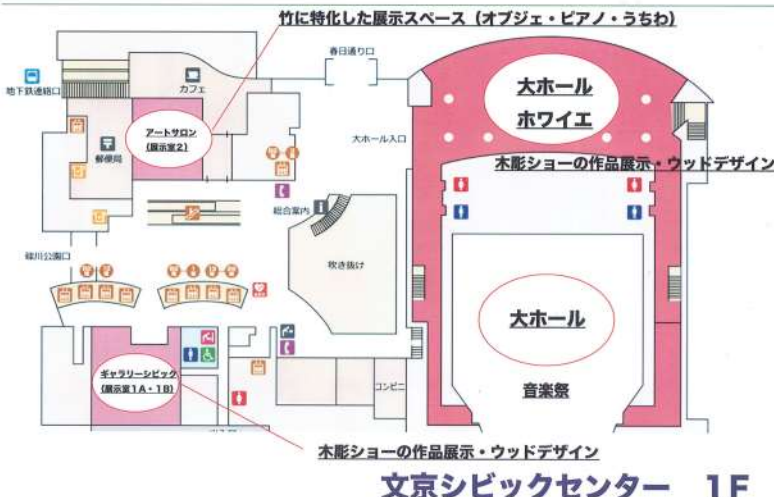


文京シビックセンター B2F

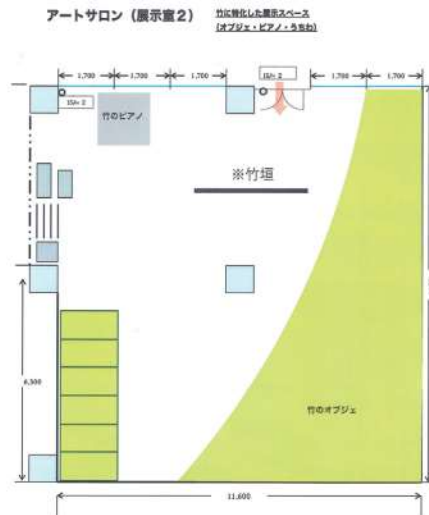
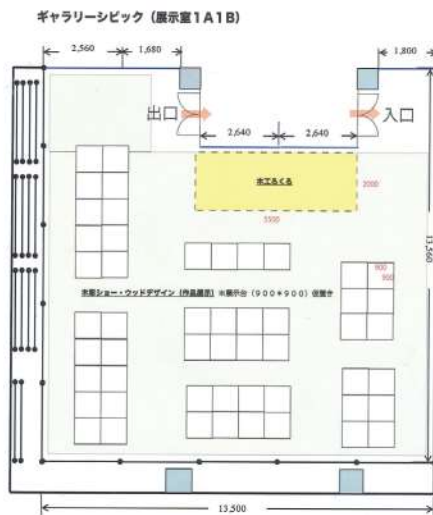
青少年交流キャンプ
書道甲子園
文京シビックセンター



竹に特化した展示スペース(オブジェ・ピアノ・うちわ)



文京シビックセンター 1F



文京シビックセンター

2F

伝統工芸ワークショップ

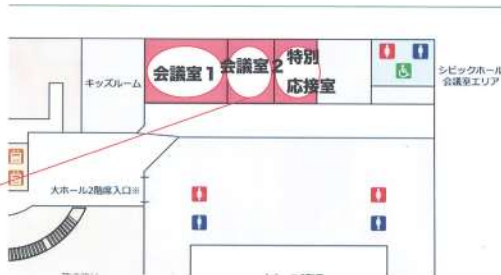
木育コーナー

熊本県

文京シビックセンター

3F

芸大スペース・控え室



問合せ先＝ワールド・ウッド・デー
 2020 東京実行委員会事務局
 〒112-0005、東京都文京区
 水道 2-4-19、☎03-3814-280
 1、FAX 03-3811-7341
 E-mail: takahashi-kobo@mx9.ttcn.
 ne.jp
 contact@worldwoodday.jp

ワールド・ウッド・デー2020東京〜ウッドレガシー〜木の総合文化展

日時場所＝2020年3月17日(火)〜19日(木) 株東京流通センター (TRC) / 東京都大田区平和島6-1-11
 2020年3月20日(金)〜22日(日) 文京シビックホール / 東京都文京区春日1-16-21
 主催＝国際木文化学会 (IWCS) アメリカ・ロサンゼルス / ワールド・ウッド・デー基金会 / ワールド・ウッド・デー2020東京実行委員会 共催＝(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会 / 東京都文京区後援＝環境省、経済産業省、国土交通省、林野庁、全国森林組合連合会、東京都大田区

ワールド・ウッド・デー2020 東京実行委員会メンバー (敬称略) 大会会長＝Mike Hou (マイク・ホー) 国際木文化学会 / WWD 基金会本部ディレクター) 特別顧問＝富田文一郎 (筑波大学名誉教授 / 日本木材学会・日本木材技術協会元会長・木材接着学) 数内佐斗司 (東京藝術大学名誉教授 授副学長 / 文化財保存学) 山下晃功 (島根大学名誉教授 / 木育)

実行委員長＝松尾祐孝 (洗足学園音楽大学教授、作曲家) 副実行委員長・事務局長＝高橋由貴子 (東京伝統木版画工芸協同組合理事長 / 江戸木版画) 本部連携担当委員＝Charlotte Lee (シャルロット・リー) / 国際木文化学会本部オペレーター

シオンマネージャー) 実行委員＝服部順昭 (東京農工大学名誉教授 / 日本木材学会元会長 / 日本木材加工技術協会会長 / 木材加工機械学 / シンポジウム) 原口博光 (一般社団法人木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会会長) 浅田茂裕 (埼玉大学教育学部教授、木育プロデューサー) 伊東隆夫 (京都大学名誉教授 / シンポジウム) 楊萍 (熊本大学教育学部教授 / 木質材化学)

小林能理子 (一般社団法人日本和楽器普及協会理事長 / 箏奏者) 斎藤晃顕 (一般社団法人木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会理事 / 事務局局長) 田子和則 (一般社団法人木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会理事 / 林業・木材活用広報担当 / 宮大工古式伝統保存会会長) 吉野崇裕 (工房木夢創立者 / ウッド・デザイン)

小泉竜夫 (株式会社ピーアールラボ CEO) インスペクター＝斎藤佳奈 (株式会社 TOKYO SHAMI 代表取締役) 鈴木充子 (フルート・クリスタルボウル奏者) 立花茂生 (特定非営利活動法人全国邦楽合奏協会理事 / 尺八演奏家) 三浦利一 (一般社団法人日本和楽器普及協会広報担当)